

会 議 録

会議の名称	平成29年度行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議
開催日時	平成29年8月7日（月） 開会：午前10時00分 閉会：午前11時40分
開催場所	行田市産業文化会館 第2会議室
出席者氏名	川島将史座長、尾澤照男委員、山崎孝子委員、千葉房慶委員 野本祐子委員、小川雅以委員、山本栄治委員、大塚高雄委員 小池利昌委員、細村美夫委員、佐野友昭委員、宮本伸子委員 新井弘美委員、浜 雅俊委員、樋口悟史委員
欠席者氏名	島田ユミ子委員、戸塚昌利委員、伊東政信委員、加藤裕一委員
事務局	企画政策課：岩田課長、川上主幹、横倉主査、沼尻主事 商工観光課：森原課長 産業拠点推進室：柿沼室長 農政課：吉田課長 子ども未来課：新井課長 保健センター：石川所長 学校教育課：佐藤次長
会議内容	(1) 総合戦略の進捗状況について (2) 総合戦略の改訂について (3) 地方創生に係る交付金について
会議資料	・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱 ・ 資料1 行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗状況 ・ 資料1-2 行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について ・ 資料2 地方創生に係る交付金実績報告書
その他 必要事項	傍聴者 3名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ（川島座長）</p> <p>3 委嘱状交付</p>
司 会	<p>4 議事</p> <p>・早速議事に移らせていただく。議事については、本会議の設置要綱の規定に基づき、川島副市長に座長としての進行をお願いする。</p>
川島座長	<p>・議事に入る前に、会議の公開に関する取扱いについてご説明する。本日の行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議の議事の中では、個人情報を取扱う予定がないことから、会議は公開とさせていただきます。会議録については、市政情報コーナー及び市のホームページにおいて後日公開する。</p> <p>・本日は総合戦略に位置付けた施策の進捗状況や指標の実績値とそれらを踏まえた計画の一部変更案、また併せて、地方創生に関する国の交付金の活用状況等について報告をさせていただきます。まず、議事（１）及び（２）について、事務局より一括で説明する。</p>
事務局	<p>（１）行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について （資料１により説明）</p> <p>（２）行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について （資料１－２により説明）</p>
川島座長	<p>・ただいまの説明について、又は行田創生全般について委員のご意見をいただきたいと思うがいかがか。</p>
尾澤委員	<p>・若小玉地区の新たな産業団地整備とあるが、規模はどの程度か。どの程度の企業が立地できる見込みか。</p>
事務局	<p>・現在、埼玉県企業局と連携して調査等を進めている段階であり、具体的な面積等をお伝えできるのは今年度末になる見込みである。</p>
小池委員	<p>・商工センター近くの空き家について、対処の状況はどうなっているか。観光面でも悪影響があると思われる。</p>
川島座長	<p>・個人所有であるため所有者の都合もあると思うが、担当課に申し伝える。</p>
尾澤委員	<p>・定住促進パンフレットは非常に良い取組みだと思うが、合わせて</p>

	<p>空き家も上手く活用し、定住促進に繋げてほしい。私の地元にある市営住宅も、空き室が多いと聞いている。若い世代のニーズに合ったリニューアルや、収入制限を見直すなどした上で、更にはこれを空き家バンクと合わせてPRしてほしい。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市としては、昨年度空き家対策に関する計画を策定し、現在、空き家バンク創設に向けて準備している。
尾澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンクについては以前から話は出ているが、スピード感を持って進めてほしい。
川島座長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度中の創設に向けて準備しているところであるが、担当課にはスピード感を持って取り組むよう申し伝える。市営住宅についても、今後は様々な観点から検討が必要と感じている。
宮本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今、日本では外国人観光客が増えているが、KPI数値が「ー」となっている。これは調査の方法が確立できていないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では、数値の計測が困難な状況である。現在、行田市を訪れる外国人はそれほど多くないものと認識しているが、この度の日本遺産認定や、ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックも控えて、今後取り組まなければならないと考えている。その際は、単純に外国人全般ということではなく、欧米系なのか、中国系なのか、中国以外のアジア系なのか等、ターゲットを明確にして取り組む必要があると考えている。
宮本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・日本遺産に認定された今が絶好の機会であると思う。早めに手法を確立して、検証できるようにしてほしい。 ・facebookのいいねの数がKPIに設定されており、H31目標値を達成したということで変更案の説明があったが、H28年度数値5,582件について、H31目標値が6,000件というのは少し寂しく感じる。「〇件以上を維持する」としたり、あるいはもっと高い目標を立てることが必要ではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS関連の数値は、少しのきっかけで大きく数値が動くなど予測が難しい面もあるが、担当課と調整し検討させていただく。
小池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、特に郊外の小学校では、児童数の減少が著しいと聞いている。統廃合については地元任せではなく、行政ももっと考え、積極的に関与して進めてほしい。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、教育委員会の教育総務課内に学校適正配置担当を新たに設け、行政主導で見直しを行っていくこととしている。その中で市全体の配置等検討をしていきたい。
尾澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「転入者の減少以上に転出者が減少しており、社会減数は緩和している」という説明があったが、事実として、行田市では今年1年間で約800人の人口減となっている。定住促進奨励金の効果は出ているのか疑問も感じる。また、社会減が緩和している中でこれほど人口減が続いているということは、自然減が多いのか、そのあたりが分かれば教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少の内訳については、年によって多少異なるが、近年ではおよそ7割程度が自然減によるものである。これは、本市の人口分布として高齢者が多いため亡くなる方が多く、一方で出生率が低いため生まれてくる子どもの数が少ないということに起因するものである。一方、社会増減については、確かに長い間減少が続いているが、社会減の人数自体はここ3年を見ても毎年度約100人ずつ減っており、減少傾向である。 ・定住促進奨励金については、利用者を対象としたアンケートを実施しており、その中の項目で、奨励金が「決め手になった」又は「判断材料の一つになった」と答えた人が5割を超えているなど、一定の成果が出ているものと考えている。条例上、現行の制度は平成30年度までとなっており、その後の定住促進施策についても今後検討していく必要がある。
尾澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・それと関連して、転出者に対して、転出理由などを聞くアンケート調査を実施してみてもどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・転出者に対しては、市民課に転出手続きに訪れた方を対象に、アンケート調査をお願いしている。提出を強制することはできないため回収率は高くはないが、回答を見ると、転出理由としては就職や転職、転勤などが多くを占めており、やはり企業誘致等による雇用の創出は重要である。
尾澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そういった調査はぜひ継続してほしい。
川島座長	<ul style="list-style-type: none"> ・他にも何かあれば、随時ご意見をお願いしたい。 ・続いて、議案第3号「地方創生に係る交付金について」、事務局よ

	り説明をお願いする。
事務局	(3) 地方創生に係る交付金について (資料1-2により説明)
川島座長	・地方創生に係る交付金については、年度終了後にこの有識者会議でご意見をいただき、それを踏まえて国に報告することとなっている。ただいまの説明に対して、ご意見等があればお願いする。
山本委員	・青大豆粉プロジェクトについて、販売促進協議会への補助を行ったとあるが、青大豆の生産者に対しては、補助金や調整金などはあるのか。
事務局	・本プロジェクトについては、あくまで行田在来青大豆を活用した事業を行う協議会に対して補助を行ったものである。
細村委員	・青大豆粉プロジェクトについてだが、売上目標や実績値はあったのか。
事務局	・今回の事業は、試作品の開発と商品化を目的として実施したものであり、実際の商品の販売目標等は立てていない。
尾澤委員	・足袋のまち行田活性化プロジェクトについて、現在の足袋職人は高齢の方が多く、技術の伝承など先々が心配である。そのあたりの取組みや考えはどうか。
事務局	・足袋産業を維持していくためには、後継者の育成は重要である。足袋事業者に話を聞いても、やはり後継者問題には頭を悩ませているが、まずは若い方に足袋について興味を持っていただくことが大切という意見が多い。今年度は、足袋フィッター養成講座という事業を展開している。足袋に興味を持っていただいた方が、様々な服装に適応できるような足袋の可能性を探りながら、フィッター養成講座を通して足袋に興味を持っていただくことを一つの入口として、今後の足袋産業を継いで行く方の一つのきっかけになればという意味も含めて事業を実施している。いただいたご意見についても参考としながら、今後の事業を展開していきたい。
尾澤委員	・やはり、足袋を仕事にして稼げる、生活できるという状況にならなければ、声をかけても集まらないと思う。そのあたりも含めて検討をお願いしたい。
野本委員	・洋装に合った足袋というのはなかなか難しいと思うが、そのよう

事務局	<p>な中でどのようにして足袋の普及を考えているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かに、足袋は着物をはじめとした和服と合うイメージがあるが、現在では、欧米の方などには、柄足袋がジーンズにフィットするということで人気がある。また、日本でも、若者を中心に足袋とジーンズを組み合わせ情報発信している方もいる。事業としては、市内足袋事業者の協力により、足袋コレや足袋の可能性を情報発信する取組みも行っている。
野本委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の事業展開を考えた時に、足袋は靴下と比較すると非常に高価であるが、今後普及していくと考えているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・靴下と比較すると確かに気軽に買える価格ではないが、耐久性も高く、職人が手作りしていることもあり、価格なりの価値があるということをしてPRしていく必要があると考えている。
小池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在でも、お祭りでは足袋が多く伝わっている。全国を見れば、お祭りだけでも足袋の需要が相当あると思うが、そのあたりの営業努力が行田の足袋に必要だと思っている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の足袋産業の拡大に向けて、祭りの実行委員会に対してのPRなどを取り組んでいくことなど、事業者に対して提言していきたい。
佐野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティア育成という話があったが、英語を勉強している中学生や高校生が行田のことを勉強し、ガイドができる取組みがあると面白いと思う。 ・また、議案第1号に戻ってしまうが、基本目標3について、達成した指標が少なかったように思う。これを平成31年度に達成するために、内容を拡充していく考えはあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・先日外国語ボランティアの方と意見交換した際にも、行田の地域資源を小中学校の頃から学んだもらうことが郷土愛の醸成に繋がるという意見があった。また、外国語が話せるという得意分野を活かして、教育現場で子どもの情操教育という面で学校生活の中に貢献したいという意見もいただいているので、それが事業展開できるよう教育委員会とも連携しながら進めていく必要があると考えている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに基本目標3の指標値については、1や2と比較すると達成

<p>事務局</p> <p>川島座長</p> <p>司 会</p>	<p>した割合が少ないが、昨年度以降、第3子以降の保育料無償化や学校給食費無償化、教育分野でも、パワーアップサポーターなど、新たな取組みを多く開始しており、市として多くの予算を投入している分野である。これらも含めて継続的に取り組むとともに、単なる補助金の上乗せ等ではなく、行田ならではの取組みを今後検討していかねばならないと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の取組みにあたっては、ぜひ青年会議所とも連携させていただきたい。 ・ただいま皆さんからいただいた意見については、取りまとめの上、国に報告させていただく。 ・本日の議事は全て終了となる。以上をもって、座長の職を解かせていただく。 ・以上をもって、行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議を閉会とする。 <p style="text-align: center;">< 閉 会 ></p>
-----------------------------------	--